

国家資格「臨床検査技師」という進路選択

身体の声を聴く専門職
健康管理のナビゲーター

臨床検査技師

臨床検査技師は、高校卒業後、大学や専門学校で臨床検査技師の養成課程を修了し、厚生労働大臣が実施する国家試験の合格者に与えられる厚生労働大臣免許です。

毎年約 3,500名の学生が国家試験に合格し、医療人として、病院・健診(検診)センター・臨床検査センター・研究開発機関など、さまざまな医療にかかわる施設に就職しています。

医師や看護師と連携しながら患者さんと接するメディカルスタッフとして検体の採取から検体の検査、またその結果説明を行う臨床検査の専門家となり、チーム医療の一員として活躍しています。



超音波検査



検体採取



循環器検査

病院での臨床検査技師の仕事は、医師が診断や治療方針を決め治療効果を確認する為に必要な検査を行っており、具体的には、医療検査機器（心電計、超音波測定装置など）を用いて患者さんの心臓や肺などの臓器や血管の働きを調べたり、患者さんから採取された血液や尿、便に含まれる成分の分析を行います。また患者さんから採取された血液細胞や臓器細胞の形の観察を行ったり、患者さんから分離された微生物がどのような種類のもので、その排除のためにどの抗菌薬が効くかなども調べる検査を行っています。つまり、的確な医療を実現する上で必須な情報を検査結果という形で医師に提供しています。

今、病院では医療技術の高度化と医療費高騰の中で、患者さんのために必要な医療を医療に係るいろいろな職種が協力して取り組むこと（チーム医療）の推進が進められています。従来の検査室で検査だけを実施するだけでなく、より患者さんやその家族の皆さんに寄り添った医療人としてその専門性を活かした活躍が求められています。さらに、病院内のみに留まらず、在宅医療や地域包括ケアでの役割も期待されています。



臨床検査技師をあなたの進路選択に加えてみませんか!!
国民の皆様の健康を見守る検査の専門家として一緒に活躍しましょう

一般社団法人日本臨床衛生検査技師会
〒143-0016 東京都大田区大森北4-10-7
TEL 03-3768-4722 FAX 03-3768-6722

チーム医療における 臨床検査技師の役割

◆チーム医療とは

現在の医療は、医師を中心に看護師、臨床検査技師、放射線技師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、作業療法士などの医療職がそれぞれの高い専門性を生かし、患者さんの状況に合わせた最善の医療を提供することを目的としたチームを構成しています。臨床検査技師もそのチームの一員として、臨床検査の専門家として診療に積極的に参加しています。

➤ 栄養サポートチーム

検査データから患者の栄養状態や全身状態を評価し、サポートの必要性や効果の判定を行い、合併症を予防し生活の質の向上をめざします。

➤ 感染症対策チーム

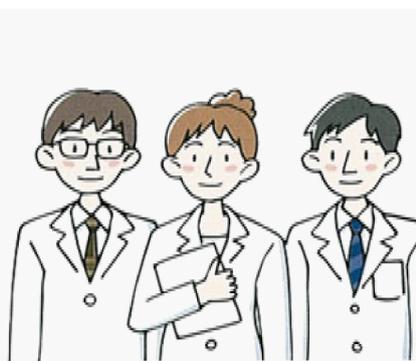
院内感染予防の各種情報を発信。病気の原因菌を特定し、薬剤効果などの情報提供を行います。

➤ 認知症ケアチーム

認知症患者の早期発見・早期治療のために認知症の検査から患者の評価を行い、適切な治療方針を決めるためのケアチームとして支援しています。

➤ 糖尿病チーム

血糖やヘモグロビンA1cの値を検査し、糖尿病の診断や治療効果の判断、合併症の発症予防などに関する情報を提供し、また、自己血糖測定器(SMBG)に管理や使用方法の説明などを通じて、患者の血糖自己管理を支援します。



臨床検査技師

➤ がん医療に関するチーム医療

血液成分の分析や超音波検査でがんの早期発見や治療効果を評価。そして直接的な病理・細胞診検査結果をもとに病理医や専門医と協力しながら、がん細胞の有無や種類、適切な遺伝子治療などについてチームとして取り組んでいます。

➤ 医療安全推進チーム

臨床検査に係る医療事故やインシデントに関する情報の収集を行い、事故の起こりにくいシステムの構築、対策を実施しています。

➤ 褥瘡管理チーム

検査データから患者の褥瘡発生リスクを評価し、褥瘡の発生を予防します。褥瘡がある場合は、原因菌を特定し、薬剤の効果などについて情報提供を行います。

➤ 治験チーム

治験の科学的な信頼性及び治験に協力していただいている患者の安全性を確保するために、検査データを管理しています。

◆これからの臨床検査技師の役割

検査室での実際の検査に加え、外来や病室の患者さんから採血や各種検査に用いられる検体を採取したり、患者さんに検査についての説明を行ったりするなど、より患者さんに近い場所での仕事が増えています。臨床検査の専門家として患者さんや医療スタッフに、いろいろな情報をわかりやすく提供する必要があります。